



# 国土のグランドデザイン2050

## 新たな大規模公共事業の創出が狙い？

国土交通省は、2014年7月「国土のグランドデザイン2050」を発表しました。その内容は、2050年までに人口が1億人を大きく下回り、現在の居住地の6割で、人口が半減するという時代を想定する一方、情報と流通の高度発達と、世界規模のグローバル化、都市・国の競争が激化していくと予想しています。また、「食料・エネルギー・環境問題の深刻化と巨大災害の発生に際しては、国家レベルの対応が必要」とし、これに対応できるように、「小さな拠点」を都市圏と連携し、地方生活圏を形成すると「生活圏」を形成すると「生活圏」は高度に発達させ、Tや鉄道・高速道路などの情報・流通網を結び、特に、東京・名古屋・大阪の三大都市圏は、リア中央新幹線の整備など、柱に国内外から人・物・金・情報を集める世界最大のメガリージョン（人材と企業を呼び込む地域）を形成すると計画されています。これまでも、この新たなグランドデザインに沿って見直し、現在の人口の都市部集中をそのままとし、都市部

の形成をあれこれ勝手に想定し、そこに住民の気分と感情、そして公共事業の創出を狙った姿勢があらわといえます。（こうした発想はすでに「阪神淡路大震災」による神戸地区の都市形成においてその問題が指摘されています。「神戸市による再開発事業が強力に押し進められ、高層商業ビルやマンションが建設されましたが、商店は、入ってもすぐ出ていくし、シャッターを下ろしたままの商業施設が目立ち、人通りはほとんどない」という現地からの報告があります。）

世界で一番「大企業が活動しやすい国作り」に邁進する安倍内閣です。維持管理を言いつつ、一方で不要不急の大型事業を進めていくことも想定され、監視を強めていく必要があります。



**あれから20年！  
そして明日から！**  
阪神・淡路大震災メモリアル



### 【追悼集会】

4時過ぎ起床。静かに家を出て、始発で三宮へ。20年目にして初めて、追悼集会へ参加するため、ウィーナスフリッジをめぐりながら、暗闇の中、5時半過ぎに到着。間に合った！

会場にはマスコミをはじめ、日本共産党の国会議員や労組・団体の懐かしい人々が円陣を組んで始まりを待っています。5時46分、トランプの演奏で始まった集

会は、黙祷の後、詩の朗読・あいさつ、たくさんのお祈り、参加者がそれぞれ胸に「希望の鐘」をつく。

この集会は、復興県民会議などの手で20年間受け継がれている。

あらためて、犠牲者の皆さんへ哀悼の祈りをした。

### 【メモリアル集会】

13時半、神戸市勤労会館で、「東日本大震災被災地に想いを寄せて」をテーマにした一部の集会が始まった。

報告に立った、原発問題福島県連絡会代表の早川さんからは、福島原発事故の原因究明もされず、収束の見込みもない現状と、避難区域の現状を紹介。住民意向調査の結果から、ものまちに帰らないとする回答理由に原発事故後の影響を挙げていることを強調。

人間の尊厳の回復、事故の再発防止を求めて提訴に踏み切り、提訴後に原告が増えていることが紹介されました。

記念講演は、宮入愛知大学名誉教授から「雲仙から阪神・中越そして東日本へ一被災者支援の到達点と課題」と題して、四半世紀にわたる大規模災害の復興と支援策や被災者の運動について紹介。「災害II天災論」は公共の責任回避論に陥り、被災者の生業やコミュニティへの支援よりもインフラへの復旧に特化される問題を指摘。阪神・淡路では、「創造的復興」を名文に神戸空港をはじめとする大プロジェクトを軸とする大プロジェクトの復興「がなおざりにされたことにより、「復興



災害」の代表である孤独死などの教訓が、東日本に生かされていないと指摘。とりわけ、東日本の原発事故に対する東電や政府の当事者意識に立った補償を始め、安全性のない原発の輸出や推進は中止すべきと提言。

今後起こりうる南海トラフや自然災害に備えた、災害復興と災害予防への政策シフトが切迫した課題！と締めくくられました。

18時から二部が、あいさつの後に「20年メモリアル合唱団」による組曲の合唱で始まり、その後、被災者の報告が続きました。

報告は、①中小企業の立場から、②再開発・まちづくりを振り返って、③借り上げ住宅追い出し問題、丹波地方豪雨災害の報告の後、④「復興県民会議の20年」のスライド上映とお礼の報告がありました。

最後に、参加者全員による大合唱で、20周年の日を終えました。

20年の節目を迎えた集会には、全国から350名を超える参加で会場をぎやかせました。

近畿支部：荒木孝明報告